

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/09

ユーロ急落後の落ち着き所を探る展開へ

通貨ペア		ページ数
基調		
ユーロ/円	➡	急落後の落ち着き所を探る展開 2-3
		予想レンジ: 114.70 ~ 118.80 円
ユーロ/ドル	➡	ギリシャのユーロ離脱は行過ぎとの見方 4-5
		予想レンジ: 1.4200 ~ 1.4750 ドル
ポンド/円	➡	ユーロ/円の動きにも要注意 6-7
		予想レンジ: 129.00 ~ 135.40 円
ポンド/ドル	➡	BOEインフレ報告の内容に注目 8-9
		予想レンジ: 1.6200 ~ 1.6600 ドル
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示 10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 5/2~6までの主な推移



5/2 Monday	国際テロ組織アルカイダの指導者ビンラディン氏が死亡したとの報道を受けて、時間外のNYダウ先物が急伸した事や、米国債利回りの上昇を手掛かりにドル/円が急上昇した事を背景に、ユーロ/円も上昇した。さらにその後、バイトマン新ドイツ連銀総裁が就任スピーチで「物価安定が引き続き金融政策の主要な目的でなければならない」などと発言したことを手掛かりにユーロ圏の追加利上げ観測が高まり、ユーロ/円は121.03円の高値を付けた。(①)
5/4 Wednesday	5日の欧州中銀(ECB)理事会で、6月の追加利上げを示唆するとの思惑からユーロ高が進み、ユーロ/円は一時120.82円まで上昇した。しかしその後は原油や金などの国際商品価格が大幅続落となった事に加え、米4月ADP全国雇用者数(17.9万人増)や米4月ISM非製造業景況指数(52.8)が事前予想を下回った事を受けてNYダウ平均株価が80ドル超の下落となった事を背景にユーロ/円は119.25円まで下落した。(②)
5/5 Thursday	ECB理事会後のトリシェ総裁の会見ではインフレに対し、上昇リスクがあるとしながらも、通常翌月の利上げを示唆する「強い警戒」という文言を用いずに、前月と同じく「非常に注意深く監視」するにとどめた。これに加え、原油価格が100ドルの大台を割り込んで下落し、金価格が30ドル超の下落となった事を受けてユーロ/円は大きく下落した。さらにNYダウ平均株価が一時200ドル超の下落となると下げが加速し、116.12円まで下落した。(③)
5/6 Friday	独シュピーゲル誌が「ギリシャはユーロ圏から脱退して自国通貨に戻る事を検討」と報じた事が伝わると急速にユーロ売りが強まった。ユーロ圏高官からは、この報道を否定する発言が相次いだものの、米4月雇用統計の結果を受けて大きく上昇していたNYダウ平均株価が上げ幅を縮小した事もあって、ユーロ/円は115.20円の安値を付けた。(④)

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は115.20円～121.03円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約3.9%の大幅下落(ユーロ安・円高)となった。5日のトリシェ・欧州中銀(ECB)総裁の会見で、6月の利上げを示唆しなかった事や6日のギリシャのユーロ離脱に関する報道がユーロ大幅下落の背景となった。ユーロ圏の利上げについては、6月の追加利上げ観測は後退したものの、引き続きインフレを「非常に注意深く監視」している事から7月の利上げ観測は維持されており、一段のユーロ安材料にはなりにくいだろう。また、ギリシャのユーロ離脱については、ユーロ圏高官からはこれを否定する発言が相次いでいるため現時点では憶測記事に過ぎないとの見方が強い。さらに、もし財政不安を抱えるギリシャが離脱した場合、最終的にユーロ圏経済にとっては好材料であるとも言えるため、一方的なユーロ売り材料とはなりにくいだろう。今週のユーロ/円は先週の大幅下落の反動からやや反発気味の推移が予想され、急落後の落ち着き所を探る展開となりそうだ。(神田)

(予想レンジ:114.70~118.80円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/円 5/06週足引値:115.53円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)ユーロ/円は、88.93円(2000/10安値)から169.95円(2008/07高値)へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円(8/24)を安値、115.97円(3/04)を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇してから下落に入っている。先週のユーロ/円は121円台から115円台へと大きく下落した。取引値は200日線(112.87円、5/06)よりも上値にあるものの、20日線(119.56円、5/06)を大きく下回り、60日線(116.57円、5/06)を割り込んで下落しつつある。ボリンジャーバンドは5/06現在、上限:122.77円～下限:116.35円で、バンド上限が横ばいの中、下限は取引値が押し下げて下落しバンド幅は拡大しつつある。5/06の引値115.53円は、4/18の安値116.47円も3/04高値115.97円も下回っている。ユーロ/円は下落相場へ回帰する動きになってきており、今後、110円方向に向けて勢いが増すかどうか注目したい。

上値ポイントは、①116.47円(4/18安値)、②119.56円(20日線、5/06段階)、下値ポイントは①114.72円(90日線、5/06段階)、②113.53円(3/24安値)、③112.87円(200日線、5/06段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 5/2~6までの主な推移



5/2 Monday	バイマン新ドイツ連銀総裁が就任スピーチで「物価安定が引き続き金融政策の主要な目的でなければならない」などと発言したことを手掛かりにユーロ圏の追加利上げ観測が高まり、ユーロ/ドルは1.4903ドルまで上昇した。(①)
5/4 Wednesday	5日の欧州中銀(ECB)理事会で、6月の追加利上げを示唆するとの思惑からユーロ高が進みユーロ/ドルは一時1.4940ドルの高値を付けた。(②)しかしその後は原油や金などの国際商品価格が大幅続落となった事に加え、米4月ADP全国雇用者数が17.9万人増と予想(19.8万人増)を下回り、米4月ISM非製造業景況指数も52.8と予想(57.5)を下回った事を受けてNYダウ平均株価が80ドル超下落した事を背景にユーロ/ドルは1.4804ドルまで反落した。
5/5 Thursday	ECB理事会後のトリシェ総裁の会見では、インフレに対して上昇リスクがあるとしながらも、通常翌月の利上げを示唆する「強い警戒」という文言を用いずに、前月と同じく「非常に注意深く監視」するにとどめた。これに加え、原油価格が100ドルの大台を割り込んで下落し、金価格が30ドル超の下落となった事を受けてユーロ/ドルは大きく下落した。さらにNYダウ平均株価が一時200ドル超の下落となると下げが加速し、1.4509ドルまで下値を切り下げた。(③)
5/6 Friday	米4月雇用統計で、非農業部門雇用者数が24.4万人増と予想(18.5万人増)を大幅に上回った事を受けてドル買いが強まると、ユーロ/ドルは一時下落したものの、雇用統計の結果を好感して時間外のNYダウ先物が急騰したため下げ渋った。しかし、その後独シュピーゲル誌が「ギリシャはユーロ圏から脱退して自国通貨に戻る事を検討」と報じた事が伝わると急速にユーロ売りが強まった。ユーロ圏高官からは、この報道を否定する発言が相次いだものの、雇用統計の結果を受けて大きく上昇していた現物のNYダウ平均株価が上げ幅を縮小した事もあって、ユーロ/ドルは1.4315ドルの安値を付けた。(④)

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4315～1.4940ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約3.3%の大幅下落(ユーロ高・ドル安)となった。大幅下落の一因となった6日のギリシャのユーロ圏離脱に関する報道については、ユーロ圏財務相会合でギリシャの財政支援策を協議している最中であり、やや先走り過ぎの印象が強い。ユーロ圏の利上げ観測と米国の金融緩和継続観測を背景として積み上がったユーロ買い持ちポジションを解消する口実となり、大幅下落につながった可能性が高い。ユーロ圏の利上げについては、6月の利上げの可能性こそ大きく低下したものの、インフレ率が高止まりする中、欧州中銀(ECB)は7月にも追加利上げを行うとの観測が根強い。対する米国では、6日の4月雇用統計で、非農業部門雇用者数は大幅に増加したものの失業率は5カ月ぶりに悪化するなど、「完全雇用」を目標とする米連邦準備制度理事会(FRB)が金融緩和をすぐに終了出来る状況ではないだろう。今週12日に発表される米4月生産者物価指数や13日の米4月消費者物価指数でFRBが重視するコア指数の伸びが低調にとどまれば、ドル安・ユーロ高が再開する可能性もある。(神田)

(予想レンジ: 1.4200～1.4750ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 5/06週足引値: 1.4335(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒5/04高値1.4940となっている。

現状の取引値は60日線(1.4164、5/06)、200日線(1.3607、5/06)よりも上値に位置するが、20日線(1.4570、5/06)よりも下値に位置する。ボリンジャーバンドは5/06現在、上限: 1.4945～下限: 1.4196であり、ボリンジャーバンドは横ばいから下落に向かいつつある。ユーロは5/04の高値1.4940から下落相場に転換している。2月の1.35近辺から積み上げたユーロ・ロングが2日でユーロ/ドルが500ポイント下落した程度で解消できるとは思えず、今後もまだ1.40割れ等下落を試していく展開となろう。上値ポイントは1.4570(20日線、5/06段階)、下値ポイントは①1.4164(60日線、5/06段階)、②1.40である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 5/2~6の主な推移



5/3 Tuesday	東京が祝日で市場参加者の少ない中、朝から円買い優勢で推移。さらに、17時30分頃に発表された英4月PMI製造業が54.6と予想(57.0)を下回ったことでポンドが売られると、ポンド/円は一段安。その後も断続的にポンド売りは続き、132.91円まで一時売られた(①)。ただし、米国市場に入ると、米国株が底堅く推移する中で下げ幅を縮小する展開となった。
5/4 Wednesday	17時30分頃に発表された英4月PMI建設業は53.3と、予想(55.9)を下回った。これを受けて発表直後のポンドは売りで反応したが、その後に格付け会社S & Pが「今後3カ月以内の英中銀(BOE)の利上げはほぼ確実」との見解を示すと、ポンド/円は134.24円まで上昇した(②)。しかし、その後に発表された米経済指標に予想より悪い結果が続き、NYダウ平均が下落すると、ポンド/円は反落した。
5/5 Thursday	17時30分頃に発表された英4月サービス業PMIが54.3と予想(56.0)を下回る結果になると、発表直後のポンドは急落。その後、時間外のNYダウ平均先物や原油先物が下落したことや、欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁の会見を受けてユーロ/円が下落すると、ポンド/円も連れて一段安となり、6日未明には130.90円の安値をつけた(③)。なお、20時に発表されたBOEの金融政策は市場予想通りの「据え置き」となったため、市場では特に材料視されなかった。
5/6 Friday	東京市場から欧州市場にかけては132円を挟んでもみ合いに終始したが、21時30分に発表された米4月雇用統計において、非農業部門雇用者数が24.4万人増と予想(18.5万人増)を大きく上回ったことからドル/円が上昇すると、ポンド/円も132.77円まで連れ高となった(④)。しかし、その後に一部報道がギリシャのユーロ離脱の可能性を指摘し、ユーロ/ドルが大きく値を下げると、ポンド/円も連れて上げ幅を縮小した。

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週の英国では、11日に3月商品貿易収支およびイングランド銀行(BOE)の四半期インフレレポート、12日には3月鉱工業生産等が発表される。特にインフレレポートに関しては、前回に消費者物価指数(CPI)について「2011年半ばまでに4-5%まで上昇後、低下の見通し」「2012年半ばまでに目標の2%になる」とした文言が変化しているかが焦点となるだろう。早期利上げ観測が強まる内容ならポンド買い要因に、そうでなければポンドが売られる要因となりそうだ。また、国内総生産(GDP)の見通しの変化(前回:2011年半ばまでに4-5%まで上昇後、低下の見通し)にも併せて注目したい。

この他、ユーロ圏のギリシャの債務再編の思惑を巡る各種報道には要注意だ。ギリシャの債務再編やユーロ離脱懸念を煽るような報道があれば、ユーロ/円が下落し、ポンド/円も連れて値を下げる展開が予想される。(ジェルベズ)

(予想レンジ:129.00~135.40円)

テクニカル分析



●ポンド/円 5/06週足引値:131.87円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)

ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的には依然として下落の流れのように見える。ポンド/円は4/08に高値140.00円をつけてからもみ合いながらも下落基調で推移している。現状では、20日線(134.90円、5/06)、60日線(133.83円、5/06)、200日線(131.99円、5/06)のいずれをも下回って推移している。ボリンジャーバンドは5/06現在、上限:138.08円~下限:131.72円であり、バンド上限、下限ともに下落推移しており、この点からも下落相場が裏付けられる。上値の重さが感じられるところ。60日線、20日線あたりをターゲットに戻り売り先行の狙いがないのではないかと。ただし、130円や129円などの下落時にはヒゲになりやすいので、そこは丁寧にショートカバーを入れたい。上値ポイントは①133.83円(60日線、5/06段階)、②134.90円(20日線、5/06段階)であり、下値ポイントは①130.20円(3/25安値)、②130円、③129.48円(122.98円⇒140円の61.8%戻し)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 5/2~6の主な推移



5/3 Tuesday	17時30分頃に発表された英4月PMI製造業が54.6と予想(57.0)を下回ったことでポンドが売られると、ポンド/ドルは大幅に下落(①)。1.6470ドル前後では底堅く推移し、米国市場に入ると米国株が底堅く推移する中で下げ幅を縮小する展開となったが、引けにかけては再び下落した。
5/4 Wednesday	欧州市場序盤からポンドはジリジリと上昇。17時30分頃に発表された英4月PMI建設業は53.3と予想(55.9)を下回り、発表直後のポンドは売りで反応したが、その後に格付け会社S&Pが「今後3カ月以内の英中銀(BOE)の利上げはほぼ確実」との見解を示すと、ポンド/ドルは1.6573ドルまで上昇した(②)。しかし、21時15分に発表された米4月ADP全国雇用者数が17.9万人増(予想:19.8万人増)、23時に発表された米4月ISM非製造業景況指数が52.8(同:57.5)とそれぞれ予想を大きく下回り、NYダウ平均が下落すると、ポンド/ドルは上げ幅を縮小する展開となった。
5/5 Thursday	17時30分頃に発表された英4月サービス業PMIが54.3と予想(56.0)を下回る結果になるとポンドは急落。さらにその後、欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁の会見を受けてユーロ/ドルが下落すると、ポンド/ドルも連れて下落した上、その後に寄りついたNYダウ平均が大幅に下落する中でポンド/ドルは一段安となり、6日未明には1.6357ドルまで値を下げた(③)。なお、20時に発表されたBOEの金融政策は市場予想通り据え置かれたため、特に材料視されなかった。
5/6 Friday	欧州市場にかけては1.64ドルを挟んだ水準で乱高下したが、21時30分に発表された米4月雇用統計において、非農業部門雇用者数が24.4万人増と予想(18.5万人増)を大きく上回ったことから、ポンド/ドルは発表後にドル高が進んだが、その後NYダウ先物が上昇したことを受けて反発し、1.6462ドルまで値を上げた。しかし、その後に一部報道がギリシャのユーロ離脱の可能性を指摘し、ユーロ/ドルが大きく値を下げると、ポンド/ドルも連れて下げた(④)。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週のポンド/ドルは方向感を模索する週になりそうだ。米国では先週末に発表された4月雇用統計がマチャチの結果だったことから、11日以降、毎日発表される経済指標を確認しながら米経済の強さを確認していく流れになるだろう。ポンド/ドルについては、指標結果が良好な場合、発表直後はドル高で反応すると見られるが、米国株がそれを受けて上昇すれば、次第にドル売り・ポンド高の動きが強まるものと見る。米経済指標が予想より弱い内容ならば、その逆の動きになるだろう。一方、英国については、11日に3月商品貿易収支およびイングランド銀行(BOE)の四半期インフレレポート、12日には3月鉱工業生産等が発表され、それぞれポンド相場の手掛かり材料になってくる見通しだ。特にインフレレポートに関しては、消費者物価指数(CPI)について前回「2011年半ばまでに4-5%まで上昇後、低下の見通し」「2012年半ばまでに目標の2%になる」とした文言が変化しているかが焦点。早期利上げ観測が強まる内容ならポンド買い要因に、そうでなければポンドが一旦売られる要因となりそうだ。(ジェルベズ) (予想レンジ:1.6200~1.6600ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 5/06週足引値:1.6367(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

先週4/28に直近高値1.6744を見て後、下落している。

取引値は60日線1.6262(5/06)、200日線1.5908(5/06)を上回っているが、20日線1.6440(5/06)を下回って来ている。また、ボリンジャーバンドは5/06現在、上限:1.6721~下限:1.6159であり、バンド幅の上限、下限ともに上昇から横ばいに転じつつある。先週で1.64を割り込んで引けた意味は大きく、基調が下落に変化しつつある。戻り売り先行で取っていける展開だと思われる。60日線(1.6262、5/06時点)を割り込むと、ボリンジャーバンド下限までの下落が期待できるところ。目先の上値ポイントは①1.66、②1.6744(4/28高値)、であり、下値ポイントは、①1.6262(60日線、5/06段階)、②1.6159(ボリンジャーバンド下限、5/06段階)、である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/9~12)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/9	15:00		(独) 3月経常収支	+89億EUR	—
(月)	15:00		(独) 3月貿易収支	+121億EUR	—
	21:15		(加) 4月住宅着工件数	18.88万件	18.30万件
5/10			香港休場(ブッダ・フェスティバル)		
(火)	10:30	○	(豪) 3月貿易収支	-2.05億AUD	—
	16:15		(スイス) 4月消費者物価指数 [前年比]	+1.0%	+0.6%
	21:30		(米) 4月輸入物価指数 [前月比]	+2.7%	+1.8%
	23:00		(米) 3月卸売在庫 [前月比]	+1.0%	+1.0%
	26:00	○	(米) 3年債入札(320億ドル)	—	—
5/11	14:00		(日) 3月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	104.2	99.8
(水)			(日) 3月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	106.8	103.6
	15:00		(独) 4月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.2%	—
			(独) 4月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.4%	—
	17:30	○	(英) 3月商品貿易収支	-67.76億GBP	-77.00億GBP
	18:30	◎	(英) BOE四半期インフレレポート	—	—
	21:30	○	(米) 3月貿易収支	-458億USD	-470億USD
	21:30		(加) 3月国際商品貿易	±0.0億CAD	±0.0億CAD
	27:00	○	(米) 4月月次財政収支	-1882億USD	-650億USD
	26:00	○	(米) 10年債入札(240億ドル)	—	—
5/12	08:50		(日) 3月経常収支	1兆6410億円	1兆7375億円
(木)	08:50		(日) 3月貿易収支	7233億円	3034億円
	10:30	◎	(豪) 4月新規雇用者数	3.78万人	—
	10:30	◎	(豪) 4月失業率	4.9%	—
	14:00		(日) 4月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	27.7	—
			(日) 4月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	26.6	—
	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	17:30	○	(英) 3月鉱工業生産 [前月比]	-1.2%	+0.8%
	17:30		(英) 3月製造業生産高 [前月比]	±0.0%	+0.4%
	18:00	○	(ユーロ圏) 3月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.4%	—
	21:30	◎	(米) 3/7までの週の新規失業保険申請件数	47.4万件	—
		○	(米) 4月生産者物価指数 [前月比]	+0.7%	+0.6%
	21:30	○	(米) 4月生産者物価指数 [コア:前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(米) 4月生産者物価指数 [前年比]	+5.8%	+6.5%
		○	(米) 4月生産者物価指数 [コア:前年比]	+1.9%	+2.1%
	21:30	◎	(米) 4月小売売上高 [前月比]	+0.4%	+0.6%
		◎	(米) 4月小売売上高 [前月比:除自動車]	+0.8%	+0.6%
	21:30		(加) 3月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	23:00		(米) 3月企業在庫 [前月比]	+0.5%	+0.9%
	未定	○	(南ア) SARB政策金利発表	5.5%	—
	26:00	○	(米) 30年債入札(160億ドル)	—	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/13)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/13 (金)	15:00	○	(独) 第1四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.4%	—
		○	(独) 第1四半期GDP・速報値 [前年比]	+4.0%	—
	18:00		(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値[前期比]	+0.3%	+0.6%
			(ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値[前年比]	+2.0%	+2.3%
	21:30	◎	(米) 4月消費者物価指数 [前月比]	+0.5%	+0.4%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.1%	+0.2%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [前年比]	+2.7%	+3.1%
		◎	(米) 4月消費者物価指数 [コア:前年比]	+1.2%	+1.3%
	22:55	◎	(米) 5月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	69.8	70.0

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com